



フクロウは、なぜ夜^{よる}だけしか活動^{かつどう}しないの

ワシやタカと競争^{きょうそう}をさけるため

ワシやタカ、フクロウは、ほかの小鳥^{こどり}やネズミなどを、とらえて食べ^たます。自然界^{しぜんかい}では、これらは強い鳥^{つよ とり}としてトップの地位^{ちい}にいます。

野生動物^{やせいどうぶつ}が、生きていくためには、自分用^{じぶんよう}のかりをする広い場所^{ひろい ばしょ}、テリトリー^{ひつよう}が必要です。同じ場所^{おな ばしょ}には、同じようなえさをねらう動物^{どうぶつ}が、何^{なん}びきもいっしょにすめません。しかし、夜^{よる}と昼^{ひる}というように、かりをする生活時間^{せいかつじかん}をずらせば、同じ場所^{おな ばしょ}でも、すむことができます。フクロウは、夜の生活者^{よる せいかつしゃ}になることで、ワシなどの昼活動^{ひるかつどう}する、強い相手^{つよ あいて}との競争^{きょうそう}をさけています。

すみ分け

同じような生活^{おな せいかつ}のしかたをする動物^{どうぶつ}は、おたがいに競争^{きょうそう}をさけるため、すむ場所^{ばしょ}を分け合^{わ あ}ったり、活動時間^{かつどうじかん}を分けあ^わたりしています。このようなことを「すみ分け^{すみわけ}」といいます。フクロウの場合^{ばあい}は、ほかの鳥^{とり}と「時間的^{じかんてき}なすみ分け^{すみわけ}」をしています。すみ分け^{すみわけ}は、長い長い進化^{しんか}のなかで生まれ^うてきた、生物^{せいぶつ}たちの「生存競争^{せいぞんきょうそう}」の結果^{けっか}です。こうすることで、多くの種類^{おお しゅるい}が、いっしょに生きていけるようになっています。

日本^{むかし}でも、昔^{むかし}、学校^{がっこう}の数が足^{かず}らなかったころ、昼^{ひる}と夜^{よる}とか、午前中^{ごぜんちゆう}と午後^{ごご}の2回^{かい}に分^わけて、授業^{じゅぎょう}をしていた時代^{じだい}もありました。よくにっていますね。（監修・今泉 忠明）

